

# 神戸市立科学技術高等学校

## 空飛ぶ車いす研究会



### 「車いすがよみがえる」

#### ◆空飛ぶ車いす活動とは？

空飛ぶ車いす研究会では国内の病院や福祉施設・個人の方などから使われなくなった車いすを提供していただき、洗浄・分解・整備など工業高校の特徴を活かした作業を行い、東南アジア諸国などを中心に世界で車いすを必要としている人たちに寄贈する活動をしています。

提供していただいた車いすは汚れや錆、タイヤのパンク、ブレーキ不良などの不具合箇所があり、1台ずつ状況が異なります。すぐには使えない状態の車いすが多く、約1週間をかけて1台の車いすを仕上げています。細かい部分にも気を配り、新品のように仕上げることを目標に整備を行い、海外に寄贈をしています。

昨年度は71台の車いすを海外に届けました。2004年から寄贈し続けた車いすの台数も、あと30台ほどで3000台となります(2024年3月時点)。お礼の手紙や現地の写真を頂いた際には、言葉が通じず、涙があつたと感じました。



### 「安心・安全・確実な整備」

#### ◆授業で学んだ技術を生かす

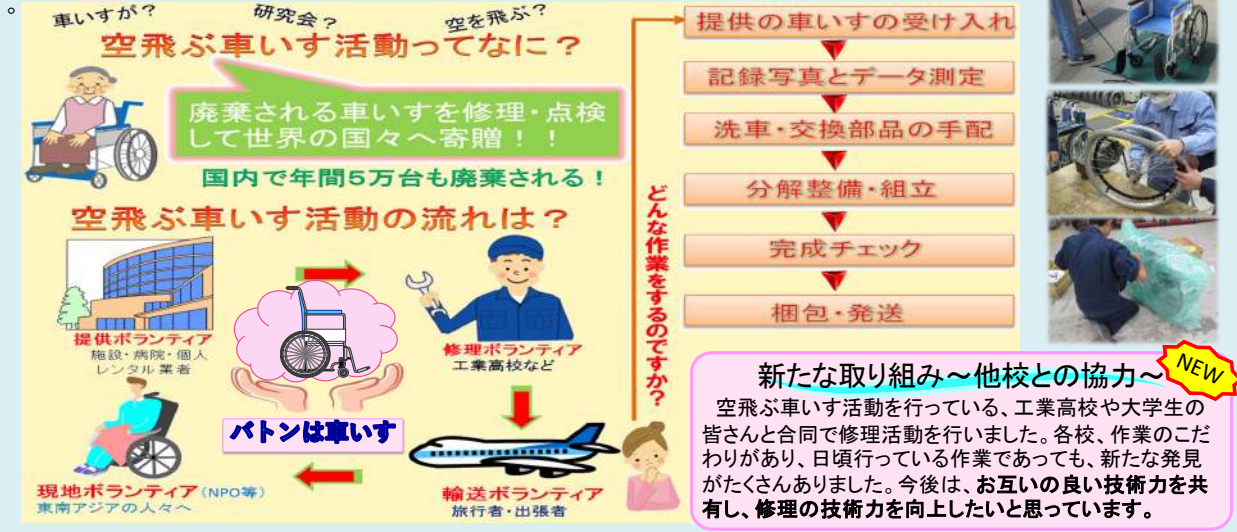
工業高校では様々な工具や機械加工機があり授業で学んだ内容をこの活動で活かせることがこの活動の強みです。提供していただいた車いすの中には欠損している部品があり、特殊な部品でも本校にある機械を使用し製作・加工することで新品同様の車いすへとよみがえらせています。

#### ◆作業の工夫

車いすの修理に使用する工具も専用の工具がない場合は、現状の工具を加工し本校独自の工具を作製しました。

1台1台の状況を見極めながら、修理の必要な箇所を考え、作業を進めています。作業の難易度によって作業人数を変更し作業のスピードや品質の向上を図る工夫をしています。確かな整備技術を伝承し、これからも工夫と努力で技術力をもっと上げていきたいと思ひます。

### 「活動の流れ」



### 私たちの愛言葉「ボタンは車いす」

活動開始から20年が経ち、日々の活動の中で先輩からの受け継いだ技術力や車いすへの思いを私たちも後輩へとしっかりと引き継いでいき、今後も世界で車いすを必要としている人へ寄贈し続けたいと思っています。

私たちの活動は使われなくなった車いすを提供してもらうことで成り立ちます。使われなくなったということは、使用していた人がなくなったことです。その車いすは使用していた人にとって、家族にとって本当に愛着があり、捨てるに捨てられないものであることを知らされたことが度々あります。海外で使ってもらう人へ安心して安全に乗ってもらう車いすの提供はもちろんですが、提供して下さった人の想いもしっかりと受け止め、毎日車いすの点検・整備に取り組んでいます。

私たちが修理・点検・梱包をした車いすは、海外を訪問する渡航者の手荷物として輸送していただいています。お礼の手紙や写真を頂いた際には、私たちの整備した車いすが人の役に立っているという嬉しさを感じ、末永く役立ってほしいと願っています。

今後は、整備技術の向上はもとより、自分の手で修理した車いすを利用される方へ持つて行き、生の声を聴きたいと思っています。また、現地の状況を知り、改善点や新たにできることはないかを考えたいと思ひます。



### 活動団体プロフィール

神戸市立科学技術高等学校では部活動と機械工学科の課題研究の授業でこの活動に取り組んでいます。

提供していただいた方の車いすへの想いを胸に、「ありがとう」の気持ちで心を込めて作業し、次に使われる海外の利用者へ安心して利用してもらえるように丁寧に点検・補修をしています。ボランティア作業ではありますが、メンバーの心には常にプロ意識をもって取り組んでいます。